

「息あるものはこぞって主を賛美せよ。ハレルヤ」

詩編 第150編 6節

この聖句において語られている「息」。それを聖書ではどう捉えるのでしょうか。聖書の最初にある創世記において、神様は世界を造られ、そして人間を造られました。人間を造られた時、神様は「**その鼻に命の息を吹き入れられ**」、そして人間は「**生きる者となった**」（創世記2・7）とあります。つまり聖書において「息」とは、人間が神様によって祝福されて生きる、その命そのもののことを言うのです。

私たち人間は皆、誰もが神様の祝福を頂いて、それぞれの命を生きる者とされています。あなた自身が喜んで生きるその命を、神様が喜んで祝福して下さるのです。神様が与えて下さっているこの命を私たちが喜んで生きる時、私たちは、その命の造り主である神様の御心を達成していることとなるのです。

「息あるものはこぞって主を賛美せよ。ハレルヤ」。「ハレルヤ」とは、「神様を賛美しよう」という意味、賛美への招きの言葉です。私たちがこの命を喜びの命として、それを与えて下さった神様に感謝をして、自分の命を真剣に生きることそのものが、神様を賛美することとなるのです。神様は私たちに、あなたは自分の命を喜んで生きていて良いのだと、いつも喜びへの招きを語って下さっておられます。そうして私たちの神様への賛美の道を備えて下さっておられるのです。

遠州教会 牧師 石井佑二